

## 東京矯正管区教誨師研修長野大会実施結果報告書（JKA 競輪補助事業）

- 1 実施年月日 令和5年6月21日(水)
- 2 会場 長野県長野市南石堂町1346  
ホテルメトロポリタン長野

### 3 目的

新しい時代にSDGsの推進として「地球上の誰一人として取り残さない」ことが提唱されています。法務省では、安心・安全な社会や、差別や虐待のない人権に配慮した社会の実現を目指し、再犯防止対策や様々な人権問題への対応を行っています。

本研修大会では、映画『あん』の鑑賞と原作者ドリアン助川氏の講演をいただきます。『あん』は元受刑者が、偏見・差別を受けた元ハンセン病患者と周囲の人々との触れ合いを通して、生きる意味を見出していくドラマです。そして「聞く」という事を大切なテーマに、この世は一人一人のためにあることを知ってほしいと描かれています。誰一人として取り残さない教誨をめざして、それぞれの活動に資していただく研修を目的とします。

- 4 参加者 248名  
教誨師145名 矯正施設関係者90名 来賓45名 講師4名

### 5 大会内容

開会式

映画上映

「あん」

講演

演題 「誰にも生きる意味がある～小説『あん』に託した思い～」

講師 ドリアン助川氏（明治学院大学国際学部教授）

シンポジウム

シンポジスト 明治学院大学 国際学部教授 ドリアン助川氏

シンポジスト 株式会社光営 専務取締役 高橋 均氏

シンポジスト 長野公共職業安定所 統括職業指導官 田中 敦子氏

補助 長野公共職業安定所 就労ナビゲーター 中村 久美氏

応援者 長野刑務所所属教誨師 嶋倉 崇雄氏

応援者 長野刑務所所属教誨師 田口 隆信氏

### 6 研修の成果

大会テーマである「誰一人として取り残さない教誨をめざして」に基づき、東京矯正管区教誨師連盟に所属する教誨師が一堂に会し、宗教教誨に関する研究協議の促進を図り、さらに相互の親睦を図ることを目的として研修

を実施した。

(1) 映画

『あん』という映画を上映した。本作品は、元ハンセン病患者の老女が尊厳を失わず生きようとする姿を丁寧に紡いでいる。刑務所から出所したのち、どら焼き屋の雇われ店長となった主人公は、その老女と出会い、さまざまな偏見と差別を体験し、生きる意味について考え、深める作品となっている。教誨師は、この映画を通して、活動で接している被収容者が、出所後、世間による偏見や差別とどう向き合っていけば良いのかについて、考える契機となった。

(2) 講演

講師として、小説『あん』の原作者である明治学院国際学部教授のドリアン助川氏を迎え、「誰にも生きる意味がある～小説『あん』に託した思い～」と題し、作品を通して伝えたかった思いとして、①自身が経験した差別や偏見について、②元ハンセル病患者への取材から得た知見、③ラジオによる若者の悩み相談から気づいたこと等について、ご講演いただいた。

その上で、社会で生活していく上で、生き難さとは何かについて考えさせる内容であった。

(3) シンポジウム

「誰一人として取り残さない」と題して、上記明治学院大学国際学部教授、協力雇用主株式会社会光営取締役、長野公共職業安定所統括職業指導官及び就労支援ナビゲーターの4名のシンポジストが、それぞれの活動とそこから感じたことを発表し、それに対する質疑応答が行われた。刑事施設と一般社会の架け橋的な役割を遂行している方々の話から、「誰一人取り残さない」ため活動とは、どういう実践であるかを再認識する内容であった。

# 第66回東京矯正管区教誨師研修長野大会記録写真

令和5年7月24日

研修会記録写真



1 ホテル外観



2 正面看板



3 来賓



4 開会のことば (大勸進)

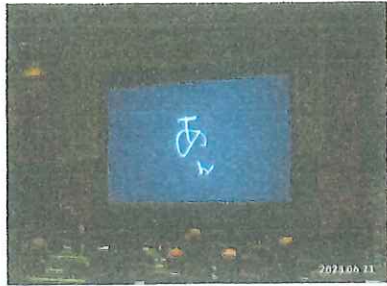


5 矯正局長あいさつ (代理)



6 閉会のことば (加藤会長)

第66回東京矯正管区教誨師研修長野大会記録写真



7 映画上映



8 記念講演 (ドリアン助川)



9 シンポジウム



10 総会・閉会式



11 万歳三唱



12 大会役員